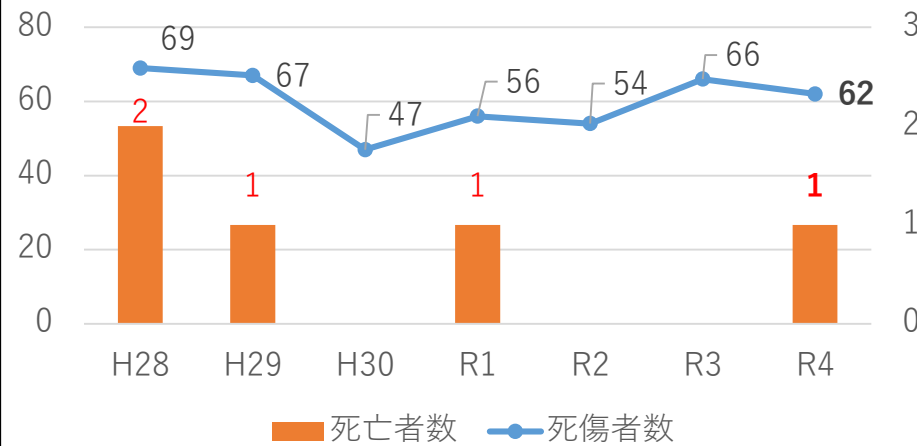


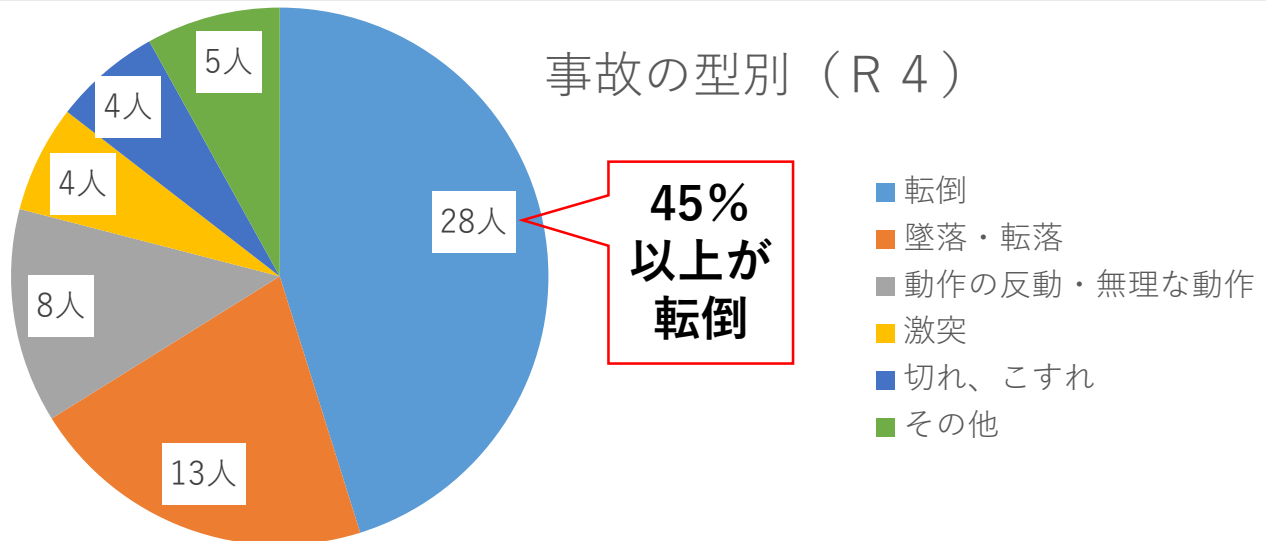
# 三島署管内のホテル・旅館業の労働災害発生状況

平成28年からの推移（人）



令和4年における三島署管内の旅館業における休業4日以上の死傷者は62人。（うち死亡者1人。）コロナ禍において減少傾向にありましたが、それ以前の数値に戻りつつあります。

事故の型別（R4）



45%以上が転倒

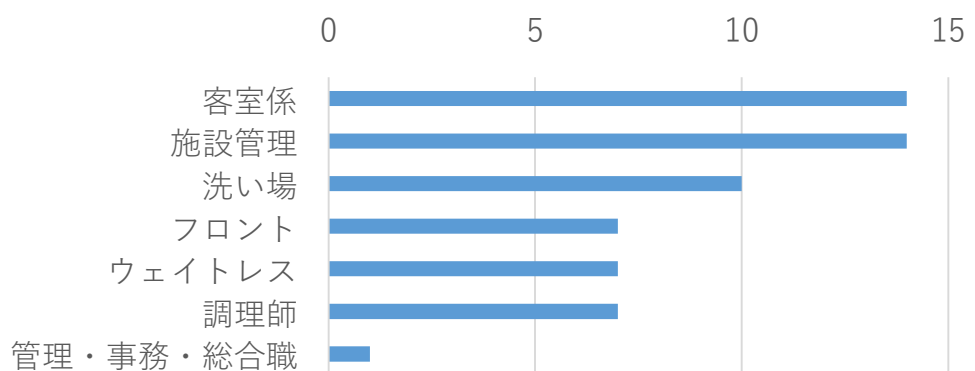
- 転倒
- 墜落・転落
- 動作の反動・無理な動作
- 激突
- 切れ、こすれ
- その他

事故の型（種類）別では、①転倒、②墜落・転落、③動作の反動・無理な動作の順。

災害防止の基本となる4S（整理・整頓・清掃・清潔）活動を進めるとともに、作業ごとに安全点検を行い、設備改善、作業方法の見直しを行い、危険をなくしましょう。

職種別では、客室係と営繕や清掃業務を含む施設管理で14人、次いで洗い場で10人となっています。

職種別（R4）



# 主な災害と対策のポイント

## 転倒災害事例

①49歳女性が、おしぼり900本入り段ボール10kgを運んでいた際、エスカレーターを降りるときに足が引っ掛かり転倒し、右足を骨折。（休業4か月）

②55歳女性が、客室の夕食の支度のため、お盆を持ち部屋に入ろうとしたところ、部屋の小上りで、足袋を履いていた足が滑り転倒し、踝を骨折。（休業3か月）



## 災害の傾向、原因等

転倒災害の約半数は50歳以上の女性となっています。

転倒による怪我の態様の約70%が骨折。その部位の大半が足で、ほかには手や胴体などとなっており、平均休業日数は47日に及びます。

また、転倒は約4分の3が移動中に発生しており、その類型はつまづき（歩行中バランス崩し・もつれ含む）と滑りが大半を占めています。

一度に多くの荷物等を運搬し、足元の確認が不十分なケースも見受けられます。

## 対策のポイント

- ✓床面、通路は、くぼみや段差がなく滑りにくい構造とする。
- ✓床の水たまりや油、滑りやすい物は放置せず、必ず除去する。
- ✓履物は、滑りにくく、安定したものを着用する。
- ✓階段には、滑り止めや手すりを設け、十分な照度を保持する。
- ✓通路、階段、出入口に物を放置しない。
- ✓確認してから次の動作に移ること、走らないことを徹底する。
- ✓荷物等は台車で運搬する。台車が使用できない場合は小分けにして複数回で運搬する。
- ✓ストレッチや転倒予防体操など運動を行って、転倒しにくい体づくりに努めましょう。



「静岡労働局 **ぬかづけ運動**」 実施中！

# 墜落・転落災害事例

- ①71歳女性が、大浴場の脱衣所にて清掃作業中、丸椅子に乗って脱衣カゴが入っている最上段の棚を拭いていたときに、バランスを崩して落下し、腿を骨折。（休業7か月）
- ②68歳男性が、敷地内の竹林を選定作業中、脚立の上に立ち、高くなった竹を鋸で切断していたところ、左手で竹を支え切断していたものの、当該竹が大きくしなったため、バランスを崩し高さ2.5mから落下し、頭部、手首等を骨折。（休業3か月）

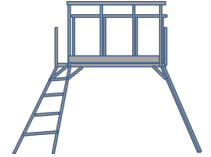
## 災害の傾向、原因等

墜落した箇所の高さは、2 m未満が大半を占めています。  
作業はほとんどが1人作業で、不安定な椅子や台を使用し、バランスを崩して墜落・転落しています。  
また、踏み外しによる墜落の場合、物を持ちながら降りる際の発生が多くなっています。  
被災者のほとんどが、骨折するといった重篤な負傷をし、その部位は、墜落時の姿勢により、手や足、腰、頭部など様々となっています。

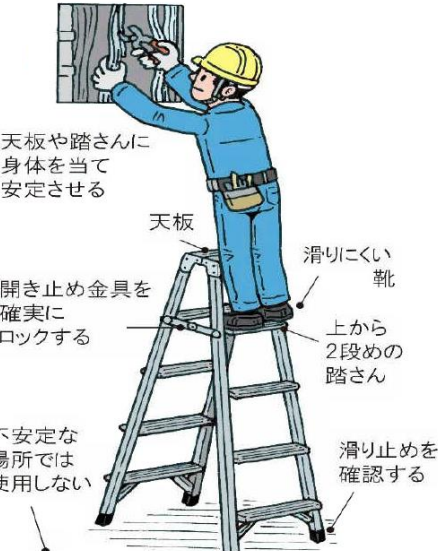
## 対策のポイント

- ✓踏台・はしご・脚立は、安定した場所で、正しい使用方法で用いる。  
(不安定な椅子等を使用しない)
- ✓脚立使用を前提とせず危険が相対的に低い可搬式作業台等の使用を検討する。
- ✓脚立について、バランスを崩しやすい天板に乗っての作業は禁止とする。
- ✓保護帽（墜落時保護用）を着用し、昇降時は3点支持をする。
- ✓高さが2 m以上の箇所での作業は墜落防止措置を講じ

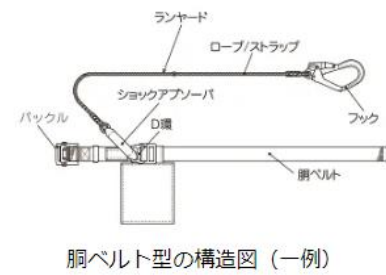
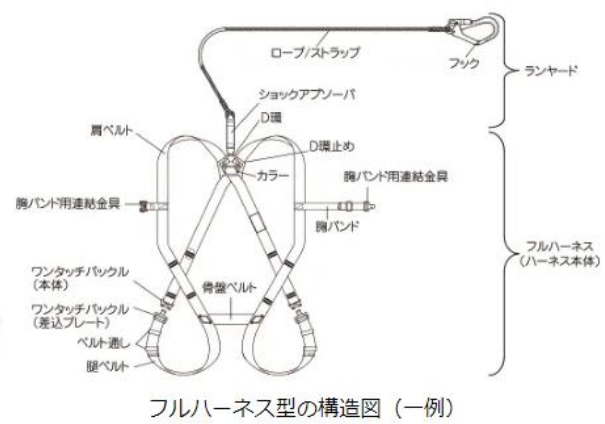
【可搬式作業台(例)】



【3点支持】



## 手すりの設置、墜落制止用器具の使用など



## 【関連リーフレット】

はしごや脚立からの墜落・転落災害をなくしましょう！



## 動作の反動・無理な動作による災害事例

①24歳男性が、客室にてベッドメイキングをしているときに、ベッドを持ち上げる必要がある仕様であったため、持ち上げたところ、腰を痛めた。

(休業1か月)

②52歳女性が、ホテル内レストラン洗浄室シンク前にて、洗浄機で食器類を洗浄するための下洗い中、シンク外で別のスタッフから受け取った取っ手付きの鍋をラックにセットしようとしたところ、手首を捻挫。

(休業3週間)

## 災害の傾向、原因等

災害は性別や年齢に関係なく発生しています。

災害の多くは物を持ち上げたときの腰痛ですが、平滑な通路上を歩行中ひねって足首を捻挫するケースもあります。

休業の程度は1か月前後が多いですが、腰を痛めると休業が長引いたり、再発するリスクがあります。

自身を過信せず、1つ1つの動作を確認しながら作業を行う必要があります。

## 対策のポイント

✓作業対象にできるだけ身体を近づけて作業する。不自然な姿勢を取らざるをえない場合は、前屈やひねりなど、その姿勢の程度をなるべく小さくし、頻度と時間を減らす。

✓腰に過度の負担がかかる作業は、無理に1人ではさせない。

✓寒い場所での作業は、腰痛等を悪化、または発生させやすくするので、適切な温度を保つ。

✓作業場所などで、足もとや周囲の安全が確認できるように適切な照度を保つ。

✓十分な休憩時間の確保、ストレッチの導入等を検討する。



## 【関連リーフレット】

職場での腰痛を予防しましょう！



エイジフレンドリーガイドライン



三島労働基準監督署



【R5.06】